

(写真・文 吉岡義雄)

ケラ (学名: *Gryllotalpa orientalis*)

【バッタ目ケラ科】



▲ 新幹線のような流線形の顔



▲ 体の前半分は卵型で腹部は細い。中肢は短く、後肢は腹部に沿っている

一度見たら忘れられないユニークな姿をしたケラ。こう見えてバッタの仲間です。ケラは湿った土の中を好み、ミミズや小さな昆虫、植物の根などを食べ、生涯の大半を地中の巣穴で過ごします。巣穴は水田の畦や湿地付近に多く作られ、水田や湿地の多い只見には広く生息しています。

ケラの特異な形態は、土の中での活動に適しています。太く頑丈な前肢は、地中を掘り進むための掘削に使います。全身には微細な毛が生えており、泥が体につきにくい構造です。この毛は水もよく弾き、雨で巣穴が水没すると、ケラは水面に浮き、岸まで泳ぎつくことができます。水田や湿地の土中に棲むケラにとっては命綱と言える能力です。

また、硬い前翅はコオロギと同じく楽器となり、その下に折りたたまれた後翅で飛ぶことができます。これらは主に繁殖に役立つ能力です。巣穴に引きこもった生活をするケラが異性に出会うのは容易ではありません。そこで、オスの鳴き声を頼りにメスが飛翔することで、交尾に至ることができるのです。また、飛翔能力は生息地を広げる役にも立ちます。限られた水田や湿地などの環境を好み、地上での活動を苦手とするケラにとって、短時間で長距離を移動できる飛翔能力は、非常に重要な移動手段です。時に多芸多才の代名詞となるケラですが、その活動をよく見れば、湿った地中の環境に適した能力であるのがわかります。

只見町ブナセンターからのお知らせ

「ただみ・ブナと川のミュージアム」では下記企画展を開催中です。皆様のお越しをお待ちしております。

企画展「雪国のブナを極める」

会期：2023年4月15日(土)～7月24日(月)

場所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー